

日銀、異次元緩和を転換

1/20 月曜日

植田総裁「緩和的環境は継続」



会見する日本銀行の植田和男総裁=19日午後

経済・暮らしはどう変わる?

政策の変更点

政策金利
マイナス金利を解除し、
政策金利を0~0.1%に
長期金利操作
枠組み撤廃
上場投資信託(ETF)
買い入れ終了

影響は?

- ・住宅ローン金利(固定と変動)上昇?
- ・預金金利(普通と定期)上昇?
- ・円高ドル安圧力に?
- ・株価下落圧力も?
- ・日銀は「緩和的環境が継続」とし、影響は限定的か

植田和男総裁は記者会見で、今年にわたる大規模な金融緩和策を終えると決めた。マイナス金利を解除して17年ぶりの利上げに踏み切り、長期金利を低く抑え込む枠組みも撤廃する。手段、規模とも異次元の領域に踏み込んでいた日銀の金融政策は、歴史的な転換点を迎えた。▼2面=貸上げ追い風、7面=金見の主なやりとり、10面=社説

日本銀行は19日の金融政策決定会合で、11年にわたる大規模な金融緩和策を終えると決めた。マイナス金利を解除して17年ぶりの利上げに踏み切り、長期金利を低く抑え込む枠組みも撤廃する。手段、規模とも異次元の領域に踏み込んでいた日銀の金融政策は、歴史的な転換点を迎えた。▼2面=貸上げ追い風、7面=金見の主なやりとり、10面=社説

かねる政策をいざれも大

きく転換する。植田氏は「現金金利や貸出し金利が大幅に上昇するとは見ていない」といつつ、今後物価が上がっていく後、物価が上がっていくば「金利水準の引き上げにつながる」と語った。今後、物価が上がっていくば「金利水準の引き上げにつながる」と語った。

長崎銀行が日銀に預けるお金の一部にマイナス0.1%の金利を適用する。長崎金利操作(イールドカーブ・コントロール=YCC)の枠組みも廃止する。「ゼロ%超底」などと云ふ言葉をなくして、金利急騰を抑えるため用額6兆円までの国債買い入れは続ける。

日銀は資金と物価がともに上がる「好循環」をめざしてきました。今春闇は、連合の初回集計で貸上げ率が5・28%に達

る金利(無担保コール型日物)を、0.00~1%程度に設定する。

「現金金利や貸出し金利が大幅に上昇するとは見ていない」といつつ、今後物価が上がっていくば「金利水準の引き上げにつながる」と語った。今後、物価が上がっていくば「金利水準の引き上げにつながる」と語った。

今回の政策転換は、異次元の金融緩和を通常の緩和に戻す象徴的な意味合いが強く、急激に金利が上がったり、日高が動くわけではない。ただ、住宅ローンや預金の金利が上がったり、日高が上がりで田高が進む可能性があり、輸入品の値上がりにつながりそうだ。

(土屋新)

住宅ローン負担増も

金利が上がりで田高が進む可能性があり、輸入品の値上がりにつながりそうだ。

ただ、日銀が急速な利上げはしないとの見方から、19日には一時、1.5%=1500円台前半へとむけた。田高が進んでおり、市場環境の先行きは見通しがいい面もある。

ただ、日銀が急速な利上げはしないとの見方から、19日には一時、1.5%=1500円台前半へとむけた。田高が進んでおり、市場環境の先行きは見通しがいい面もある。

マイナス金利解除

長短金利操作撤廃

三」「購入終了

が、緩やかながら起きる可能性がある。

日銀が引き上げた政策金利は、住宅ローンの変動金利や企業への短期融資の金利、預金金利の基準となつておらず、これらには上昇圧力がかかる。

金利は融資にも影響する。最近の堅実的田安は日本の超低金利で利上げを進めた米国との金利差が主因だった。日銀の

金利は融資にも影響する。

金利は融資にも影響する。